



橋梁支承は橋の橋脚と橋桁の間に設置する部品。川金ホールディングス（HD）、埼玉県川口市、鈴木信吉社長は、その橋梁支承で国内トップシェアを誇る。瀬戸大橋など国内外で多くの実績を持つ。母体となる川口金属工業は鈴木社長の祖父が1948年に設立した。2023年に75周年を迎える。

不変と革新

～長寿経営に向けて～

事業をつなく

川金ホールディングス（埼玉県川口市）

こだわり捨てHD制で成長

成形機など産業機械が2割という構成だ。

「铸件にこだわり過ぎなかったことがよかった。こだわりを捨てたことが、会社が生き延びてこられた理由の一つ」と70年以上に渡って会社が発展してきた要因を鈴木社長は話す。

社長就任翌年の08年に持ち株会社制を導入して川金HDを設立した。「事業会社が子会社を持つと主従関係が強くなる。全部同列にすることでフラットな関係にしたいと考えた」と鈴木社長は強調する。旧日本興業銀行に勤めていたが、社長だった父親の死去により転身した。

20年にはグループ社員向けの「行動ハンドブック」を作成する。「各事業会社を越えて全体で共通の価値観を持つ必要がある。価値観を共有して働けば、個人も充実するし会社も発展する」と話す。

連帯、誠実、成長、挑戦、感謝の五つを「私たちの大切な価値観『コアバリュー』」と定めた。

「これからは提案型企業を目指す。顧客から求められた製品を提供するだけでなく、こちらからの提案によって顧客に喜ばれる仕事をする。もう一つは保守改修の仕事に力を入れる。橋など古いインフラ（社会基盤）をどう維持していくか。我々の技術が求められている」と将来ビジョンを描く。

橋梁支承で国内トップシェア。瀬戸大橋など国内外で多くの実績を持つ（鋼製支承の出荷）

【企業メモ】設立当初から铸件品製造を手がけ、58年から橋梁支承の設計・製造を始める。当時は铸件の支承だったが、阪神大震災を契機にゴム製に置き換わった。ピルの免震装置や油圧ダンパーなども製造・販売する。